

次回は11月に学習会 「30年先見据え戦略を」

市民と行政が連携してまちづくりのあり方を考えるフォーラムが中広の赤穂市文化会館ハーモニーホールで10月にあり、市民約10人が参加した。

「あなたの想いを未来の赤穂へ」と題し、今年1月に発足した市民有志のグループが、元兵庫県職員で県構教授が「地方自治の長期ビジョン策定を担当した畠正夫氏(兵庫県立大学地域創造機関)が主催。元兵庫県職員で県構教授が「地方自治の長期ビジョン策定を担当した畠正夫氏(兵庫県立大学地域創造機関)が主

に地域づくり子どもたちに何を伝えるか」とテーマに基調講演した。畠氏は、人口減少と並行して科学技術の急速な変化やデジタル社会が進む中、「コロナが去った後にどのような世の中がやってくるのか」をテーマに基調講演した。

赤穂市が2021年

に取り組む上で最も大切なのは、「公共的価値」は何なのか考

ること」だとし、「例

えば、観光振興や観光客がたきん来た、お

金が落ちた、まちがでいいのか。それが持続可能なものかどうか、ほとんど議論され

ていい」と問題提起した。

「30年先を見据え

た戦略を立て、5~10年単位の戦術」を課題

解決のスパンとして示

した。

赤穂市が2021年

から10年間の市政運営

指針として策定した

「2030赤穂市総合

計画」についても触

るのではなか」ととめ

た。その姿を子どもたちに見せていく子どもたちと二つとも、これが「つくったものを

どう活かすかを考え、

その姿を子どもたちに

見せていく子どもたちと二つとも、これが「つくったものを

どう活かすかを考え、

その姿を子どもたちに

見せていく子どもたちと二つとも、これが「つくったものを